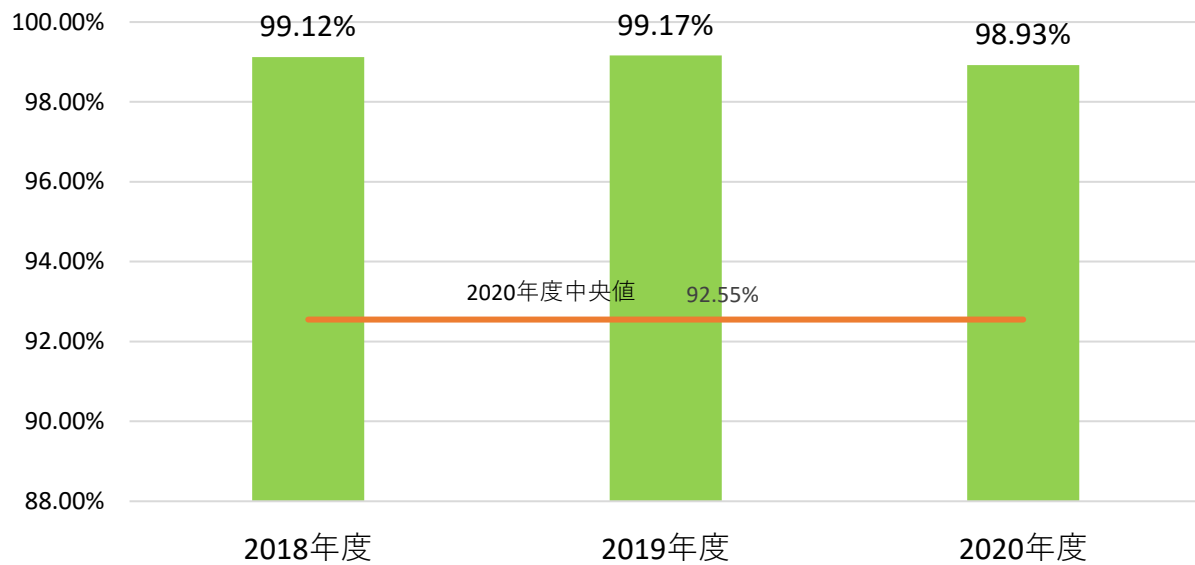


手術患者の肺血栓塞栓症予防対策実施率



	2018年度	2019年度	2020年度
下記のうち、 肺血栓塞栓症予防対策を実施した患者数	2,931人	2,971人	2,671人
当該手術を施行した入院患者数	2,957人	2,996人	2,700人
肺血栓塞栓症予防対策実施率	99.12%	99.17%	98.93%

【指標の説明】

国内において、肺血栓塞栓症が発症した場合の院内死亡率は14%と報告されています。そのうち40%以上が発症1時間以内の突然死であるとされており、臨床診断率の向上だけでは予後の改善は達成できないといえます。よって、発症予防対策が必要不可欠です。当院では、肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した入院患者さんに対し、高い割合で予防対策を実施しております。

【計算方法】

分子...分母のうち肺血栓塞栓症の予防対策（弾性ストッキングの着用、抗凝固療法のいずれか）が実施された患者数

分母...肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した入院患者数

※リスクレベルは肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症の予防ガイドラインによる